

「出題の意図」

選抜区分	2025（令和7）年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 国際環境工学部（科目名：数学）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><出題の意図・ねらい></p> <p>第1問 数学I, 数学Aに関する基礎学力を確認する問題である。根号を含む式の計算, 絶対値記号を含む1次不等式, 2次方程式, 三角比, 場合の数と集合について出題している。初歩的な計算を確実に解く能力を問う。</p> <p>第2問 数学II, 数学Bに関する基礎学力を確認する問題である。図形と方程式, 指数関数と対数関数, 三角関数, 数列について出題している。幅広い基本問題を確実に解く能力に加え, 変動する三角形の重心の軌跡の設問などを通して応用力を問う。</p> <p>第3問 数学III 分数関数などの関数の基本を理解しているか, 微分法の応用として曲線の接線の方程式を求めることができるか, 積分法の応用として曲線・直線で囲まれた図形の面積を正しく計算できるかを問う。</p> <p>第4問 数学Bにおける平面上のベクトルに関する基礎学力を確認する問題である。内分点の位置ベクトル, 交点の位置ベクトルなどの基本的な理解とその問題を解く能力を問う。</p> <p><受験生の特徴と傾向></p> <p>第1問 第1問は基礎的な学力を測る問題であった。(問1), (問3)は比較的正答率が高かった。(問2)では不等号の使い分けができていない, あるいは1が含まれていないという誤答, (問4)ではθの範囲から解の符号を限定できていない解答が散見された。(問5)はやや正答率が低かった。</p> <p>第2問 第2問も主に基礎的な学力を測る問題であった。(問2)では, 自然数で答えていない, あるいは不等号の使い分けができていない解答, (問3)ではθの範囲から解の符号を限定できていない解答が散見された。個々の受験生の得手不得手によって正答率がばらついたが, 全体的には概ね同等の正答率であった。</p>

第3問

微分法と積分法の応用力を問う問題であった。(問1)は比較的正答率が高かった。(問2)は受験生によって正答率が大きく異なった。また、記述式の設定であるにも関わらず、導出過程を示していない、あるいは文字が判別できない解答があった。

第4問

第4問は平面上のベクトルに関する基本的な問題であったが、受験生によって正答率が大きく異なった。(問1)は比較的正答率が高く、(問2)と(問3)は比較的正答率が低かった。第3問と同様、記述式の設定であるにも関わらず、導出過程を示していない、あるいは文字が判別できない解答があった。